

TOPICS

柔軟性材料への 漆塗膜形成技術の開発

—革材や織布への漆塗り手法の確立—

繊維生活部 梶井紀孝(かじい のりたか)

kajii@irii.jp

専門：漆工、工業デザイン

一言：新しい漆技術により新製品の
開発を支援します。

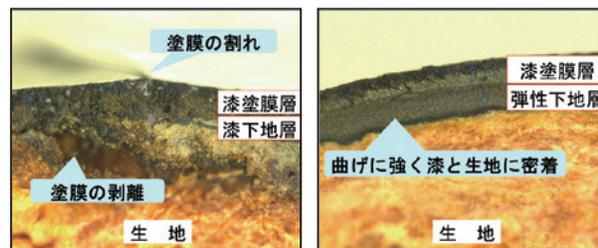


県内の漆器産地では、漆の用途を拡大するため、漆を革や布などの生地きじの表面に塗布する技術開発が求められています。しかし、生地の表面に従来の手法で漆を塗り重ねただけの塗膜は屈曲に弱く、図1の左側に示すように、塗膜の表面に割れや剥離が発生しやすいことが課題となっています。

そこで工業試験場では、生地に対し、さまざまな塗料や下塗り剤の有無など加工条件の異なるサンプルを試作し、耐摩耗性、付着性、屈曲性、耐熱性を評価しました。その結果、図1の右側に示す弾性樹脂を下塗りすることで、従来の漆下地のみより生地と塗膜が密着して、屈曲に強くなることがわかりました。本研究開発により求めた

さまざまな生地に対する最適な加工条件を用いて、図2に示す漆塗り革製品を試作しました。今後、産地企業への技術移転を進めていきます。

工業試験場では、今後も漆の新しい用途開発を支援して行きますので、お気軽にご相談ください。



従来手法
(漆のみを塗り重ねる)

本手法
(弾性樹脂を下塗りして漆を塗る)

図1 漆塗膜の拡大断面図(200倍)



全面に漆塗りした財布と名刺ケース 草花柄に漆塗りした財布と鍵ケース

図2 試作した漆塗り革ケース